

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3141664号
(U3141664)

(45) 発行日 平成20年5月22日 (2008. 5. 22)

(24) 登録日 平成20年4月23日 (2008. 4. 23)

(51) Int. Cl.

E O 4 H 13/00 (2006. 01)

F 1

E O 4 H 13/00

B

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2008-1388 (U2008-1388)
(22) 出願日 平成20年2月12日 (2008. 2. 12)(73) 実用新案権者 390040981
大山 正憲
愛媛県四国中央市村松町230-1
(72) 考案者 大山 正憲
愛媛県四国中央市村松町230-1
(72) 考案者 山口 清一郎
長崎県東彼杵郡波佐見町三股郷640

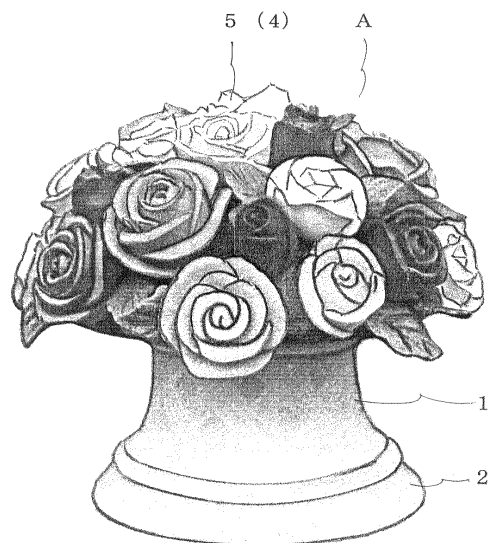
(54) 【考案の名称】 納骨容器兼用の花笠墓

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 納骨容器を個性的な容器とし、墓も個性的な墓とする。

【解決手段】 納骨容器又は墓を常に花で飾ったものとし、納骨容器を単調な陶磁器の容器でなく美しい容器とすること、又墓も単なる石材の墓でなく華麗な墓として霊園の雰囲気と和ませるような墓とする。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

石材又は陶磁器製で、円筒状で下方に向けて末広がりとし、内部は底を残して空洞とした容器と、当該容器に冠着する略半円球状の蓋からなり、当該蓋の外面には同じく石材又は陶磁器からなる適宜の多数の花を固着してなる納骨容器兼用の花笠墓。

【請求項 2】

容器本体、蓋及び花を、透光性の大きな大理石又は陶磁器としてなる請求項 1 の納骨容器兼用の花笠墓。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】**

10

【0001】

本考案は、故人の遺骨を納骨する納骨容器（墓）に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来より骨つぼ（納骨容器）は白の陶磁器製の蓋付容器が一般的であり、格別に個性的な形状のものはみかけない。また墓石も個性的なものも見掛けるが全般的に見れば従来から変わっていない。

【0003】

一方、最近は一一般的な墓の建立が困難になっている。原因の一つとして、特に都会においては手近に霊園が確保し難いこと、また墓石も高価なことが上げられるが、近年、一般的な霊園に墓石を建立すると言うのではなく、ロッカータイプの納骨システムが開発されてきた。

20

【0004】

ロッカータイプの納骨システムにも、石材製から金属製と種々開発されているが、いずれもロッカーの納骨室内部に骨つぼを収納すれば、その周辺にはあまり余裕はなく、献花する余地もないというのが実情である。また仮に献花可能な広さであっても、納骨室は扉で閉ざされることから生花を献花することは困難であった。

【0005】

また、霊園においても、従来からある和墓を建立するのではなく、霊園そのものを芝生を敷き詰めた用地とし、そこに小型の洋墓を建立することも実施されているが、洋墓とはいえ、従来からあるもので、墓石そのものに改良の余地は充分にあったのである。

30

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】****【0006】**

解決しようとする問題点は、納骨容器を単なる容器ではなく、個性的な容器とすることであり、また墓においても個性的な墓とすることである。

【課題を解決するための手段】**【0007】**

本考案は、納骨容器又は墓を常に花で飾ったものとし、納骨容器を単調な陶磁器の容器でなく美しい容器とすること、又墓も単なる石材の墓でなく華麗な墓として霊園の雰囲気

40

【考案の効果】**【0008】**

納骨容器は従来は陶磁器の単なる白いつぼであったが、本考案は石材又は陶磁器製で、円筒状で下方に向けて末広がりとし、内部は底を残して空洞とした容器と、当該容器に冠着する略半円球状の蓋からなり、当該蓋の外面には同じく石材又は陶磁器からなる適宜の多数の花を固着してなる納骨容器兼用の花笠墓であり、更には、容器本体、蓋及び花を、透光性の大きな大理石又は陶磁器としてなる納骨容器兼用の花笠墓であるから、ロッカータイプの納骨室内に花笠タイプの納骨容器を入れることで、納骨容器は常に花に飾られており、霊園に建立する場合も花笠墓であるから優美であり且つ霊園そのものの雰囲気も和

50

らぐものである。また太陽電池とＬＥＤ照明を利用したものによっては夜間において薄っすらと花笠が浮き上がり極めて優美である等、極めて実用的な効果を有するものである。

【考案を実施するための最良の形態】

【０００９】

本考案は、石材又は陶磁器製で、円筒状で下方に向けて末広がりとし、内部は底を残して空洞とした容器と、当該容器に冠着する略半円球状の蓋からなり、当該蓋の外面には同じく石材又は陶磁器からなる適宜の多数の花を固着してなる納骨容器兼用の花笠墓であり、更には、容器本体、蓋及び花を、透光性の大きな大理石又は陶磁器としてなる請求項１の納骨容器兼用の花笠墓を呈せんとするものである。

【実施例１】

10

【００１０】

本体１は円筒状で下方に向けて末広がりとし、下端部分には更に大径とした台座部２を設けると共に、内部は底を残して空洞（納骨部３）とした容器を大理石又は陶磁器により形成する。当該本体１に冠着する蓋４は略半円球状とし、同じく大理石又は陶磁器製としている。当該蓋４の外面には同じく石材又は陶磁器からなる適宜の多数の花５、５…を固着し納骨容器Ａとしている。花５の種類、大きさ、固着方法に限定を受けるものではない。

【実施例２】

【００１１】

本体１の下端部分に位置する台座部２の下に更に適宜の高さで台座部２より更に大径の台座６を設け花笠墓を構成している。

20

【実施例３】

【００１２】

図示はしていないが、本体１、蓋２、花３の部分の肉厚を若干薄くし、且つ透光性の大きな大理石又は陶磁器にて形成する。

【実施例４】

【００１３】

同じく図示はしていないが、蓋４の一部分スペースは花５を取付けずにおき、当該部分に太陽光発電のモジュールを取付け、蓋４の内部に高輝度・省電力のＬＥＤ照明等を配設すると共に、充放電コントローラー、メンテナンスフリー蓄電池等々を台座６に収納し、太陽光により蓄電した電力で、透光性の大きな大理石又は陶磁器にて形成された本体１及び蓋４の花５が夜間に薄っすらと光るように構成している。これは実施例２の花笠墓に用いられている。

30

【産業上の利用可能性】

【００１４】

本考案は、石材又は陶磁器製で、円筒状で下方に向けて末広がりとし、内部は底を残して空洞３とした容器本体１と、当該容器本体１に冠着する略半円球状の蓋４からなり、当該蓋４の外面には同じく石材又は陶磁器からなる適宜の多数の花５、５…を固着してなる納骨容器Ａ兼用の花笠墓Ｂであり、更には、容器本体１、蓋４及び花５、５…を、透光性の大きな大理石又は陶磁器としてなる請求項１の納骨容器Ａ兼用の花笠墓Ｂであるから、従来は骨つば（納骨容器）と言えば白の陶磁器製の蓋付容器が一般的であり、格別に個性的な形状のものはみかけなかったし、また墓石も個性的なものも見掛けるが全般的に見れば従来から変わっていなかった。更にはロッカータイプの納骨室にあっては、その納骨室のスペースから献花も容易でなく、しかも芝生を敷き詰めたような綺麗な霊園にも従来からの洋墓しか建立されていなかったが、本考案ではロッカータイプの納骨室内に花笠タイプの納骨容器Ａを入れることで、納骨容器Ａは常に花に飾られており、霊園に建立する場合も花笠墓Ｂであるから優美であり且つ霊園そのものの雰囲気も和らぐものである。また太陽電池とＬＥＤ照明を利用したものによっては夜間において薄っすらと花笠が浮き上がり極めて優美である等、産業上での利用可能性は極めて大きいものがある。

40

【図面の簡単な説明】

50

【 0 0 1 5 】

【 図 1 】 納骨容器の正面図

【 図 2 】 納骨容器（花なし）の一部断面した側面図

【 図 3 】 花笠墓の正面図

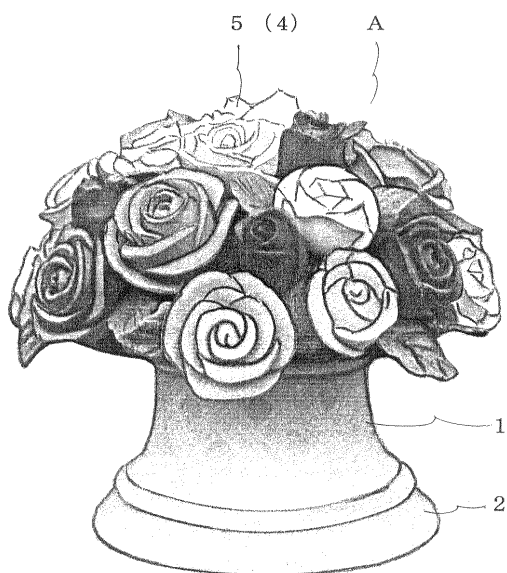
【 符号の説明 】

【 0 0 1 6 】

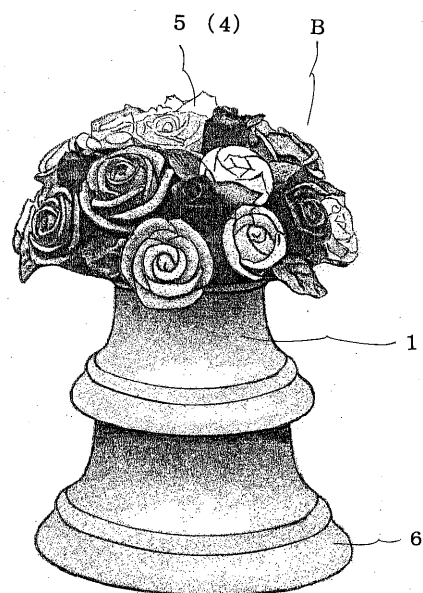
- 1 容器本体
- 2 台座部
- 3 空洞（納骨部）
- 4 蓋
- 5 花
- 6 台座
- A 納骨容器
- B 花笠墓

10

【 図 1 】



【 図 2 】



【図 3】

